

新型コロナウイルス関連の取り組みについて

鳥取県立図書館では、地域の課題解決支援サービスの一つとして、平成18年より医療・健康情報サービスを開始し、医療・健康情報サービスの普及および闘病記を中心とする罹患した人の心を支える生き方情報の普及啓発を行っています。

新型コロナウイルス感染が拡大し始めた2020年3月以降、関連機関と連携し新型コロナウイルスに関連した取り組みを感染状況に応じて実施し、正しい医学・健康情報のもとに人権を尊重した暮らしやすい地域づくりをめざしてきました。

令和2・3年度に実施しました取り組みについてご紹介します。

新型コロナウイルス関連展示

第1波

- ①企画展示「感染症を知る～新型コロナウイルス・パンデミック」
(2020.3.18～2020.8.30)



第2波

- ②常設展示「新型コロナウイルス以降の新しい「暮らし方」・「働き方」を支える情報棚」
(2020.6～)

<http://www.library.pref.tottori.jp/info/post-157.html>



- ③企画展示「新型コロナウイルスについて知る」
(2020.9.1～2021.9.30)

<http://www.library.pref.tottori.jp/exhibition/2318.html>

- ④企画展示「ひとりで悩まないで～自死予防～」
(2020.9.1～2020.9.29) 協力：健康政策課

<https://www.library.pref.tottori.jp/exhibition/431.html>



第3波

- ⑤ミニ展示「みんなで「医療」を考えよう」
(2020.11.17～2020.12.27)

<https://www.library.pref.tottori.jp/exhibition/cat10/cat8/211131227.html>



第4波

- ⑥企画展示「新型コロナに負けない！「認知症・フレイル予防」」
(2021.5.14～2021.6.30) 協力：長寿社会課

<http://www.library.pref.tottori.jp/exhibition/cat10/cat3/post-120.html>

- ⑦特別展示「ハンセン病問題啓発パネル展」
(2021.6.1～2021.7.30) 協力：健康政策課

<https://www.library.pref.tottori.jp/exhibition/cat10/cat8/29714730-1.html>



第5波

- ⑧企画展示「闘病記文庫開設15周年 「アフターコロナにおける図書館の可能性を考える」」
(2021.7.1～2021.7.30)

<http://www.library.pref.tottori.jp/exhibition/cat10/cat3/10-287128730.html>

- ⑨ミニ展示「冬に起こりやすい病気を予防しよう」
(2021.11.1～2022.1.30)

<http://www.library.pref.tottori.jp/exhibition/cat10/cat8/3811030.html>



第6波

- ⑩企画展示「オミクロン株に注意！感染対策を徹底しよう」
(2022.1.14～2022.3.30)

<https://www.library.pref.tottori.jp/exhibition/31114130.html>





新型コロナウイルスとの闘い

～アフターコロナにおける図書館の可能性を考える～

日時 令和3年7月10日(日)午後1時30分～4時まで**会場** 鳥取県立図書館 大研修室他**主催** 鳥取県立図書館**共催** 鳥取大学

令和3年度、県民の健康への願いを込めて開設した「闘病記文庫」が15周年を迎えました。新型コロナウイルス感染症の最新情報をお届けすると共に、アフターコロナを視野に図書館に何ができるのかを探るシンポジウムを開催しました。県立図書館、米子市立図書館、琴浦図書館、加藤文太郎記念図書館、あわくら図書館の各会場、Zoom参加も含め、計109名の方にご参加いただきました。

基調講演 「新型コロナウイルス変異株の流行とワクチン接種」

講師 景山 誠二 氏（鳥取大学医学部副学長）

新型コロナウイルスおよびワクチン接種について、新型コロナウイルス対策に最前線で尽力されている景山先生から分かりやすく説明していただきました。新型コロナウイルスの基礎知識から感染対策やワクチンについての研究を基にした確かな最新情報までご紹介いただきました。

参加者からも、「コロナウイルス、ワクチンについての基本的な考え方がよく分かった。」「医学的データを示して頂き、ワクチン接種による安心感が増幅した。」「コロナウイルス感染については不確実な情報が蔓延する中で、医学的データを基に講師の的確な解説がありよかったです。」と大変好評でした。



※会場では、フィジカルディスタンスの確保、換気・消毒徹底等を徹底し、感染防止対策を講じました。

報告 「県立図書館および県内図書館の医療・健康情報の15年間の歩み」

報告者 中尾 有希子（鳥取県立図書館郷土資料課長）

鳥取県立図書館は、平成18年、暮らしに役立つ図書館として、「県民のための健康情報サービス」を開始しました。それ以来、外部の専門機関や関係者の方々のご支援をいただきながら、医学的な確かな情報を提供する「医療・健康情報コーナー」と、病気と向き合う患者と家族の心を支える「闘病記文庫」を充実させてきました。また、関連した取り組みとして、資料相談、「医療・健康情報調べ案内」作成、テーマ展示、講演会、セミナー、ワークショップ等を続けてきました。

その間、医療・健康情報サービスは、県内の多くの市町村立図書館、病院図書室等にも広がってきました。県内図書館や専門機関とのネットワークも整備され、県民が安心できる確かな情報を身近な図書館で収集できるようになってきました。シンポジウムに合わせて、県内各図書館にアンケートにご協力いただき、その結果についても一部紹介しました。（アンケート結果は、7～8ページに掲載）

人と情報のネットワークを大切に、今後も県民のみなさまの不安を和らげ、心を支える図書館を目指していきたいと思っております。



コーディネーター

田村俊作氏

(慶應義塾大学名誉教授 図書館・情報学)
※感染拡大防止のため県外よりリモート中継

パネリスト

友森一美氏 (Breast Cancer Network Japan
あけぼの会 あけぼの鳥取 代表)

景山誠二氏 (鳥取大学医学部 副学部長)

内田眞澄氏 (鳥取県看護協会 前会長)

松田啓代 (鳥取県立図書館情報相談課長)



田村氏より進行について

まずは4人の方に、それぞれコロナの中でどんな経験をしていらっしゃるのかをお話いただきます。時間がとれば、図書館とコロナ禍での経験の中で、どんなふうに関わってきたのか等のお話もしていただければと思います。

その後、皆さんの知識とか経験をこれからのアフターコロナでどんなふう継承し、あるいは共有していくかといったことについて、一緒にお話しできればと考えております。

友森氏 「闘病記で生きる力を」(発表パワーポイントより抜粋)

- これまでの活動(乳がん患者会、メンタルサポートと社会復帰への支援、乳がんについての知識アップ “知ろう乳がん守ろう命”、ピンクリボン活動 “早期発見・治療啓蒙” 乳がん検診とセルフチェックの重要性
- コロナ禍での状況
 - ・実際に集まりができなくなり、コミュニケーションが取れにくい
⇒つながっていたいニーズ
 - ・情報交換もできづらくなっている。
- 図書館との関わり(会員へのアンケート結果)
 - ・闘病記から得られる情報は、病院では得られない情報が書かれている。
 - ・同じ立場に立って共感できることが多く、病気になってからの日常生活に生かせることも多い
 - ・特に今の状況では、図書館へ行くことができない。



患者会会報誌「梨花だより」

田村氏より友森さんのお話について

まず最初に、患者会の基本というのがお互いに支え合うことにあるということをお話いただきました。患者会の活動として、情報の発信とか外部への働きかけが大切だけれども、コロナ禍の中では、お互いの直接のコミュニケーション自体が難しくなっている。そのため、お互いに支え合うために、会報の発行頻度を増やしたり等の工夫を多くされているというお話もいただきました。

図書館については、コロナ禍に利用して大丈夫なんだろうかという不安をお持ちだということ、図書館には、医療・健康情報については信頼できる情報を提供してほしいというお話もいただきました。

患者会の皆さんには、これからも利用者としての立場から色々ご意見をいただけるとありがたいです。

景山氏

1. 新型コロナウイルスについて、大学の教育者・研究者として、また鳥取県関連の対策アドバイザーとして、さらに新聞・テレビ・その他のメディアを通じた解説者として役割を担ってきたと考えています。
2. 今回、医療課題の解決のための図書館の役割を考える機会を得ました。研究は、課題の発掘、仮説の提示、仮説の検証と続きます。最後の検証作業を伴わない事実は、単なる噂です。噂に過ぎない話と、きちんと裏がとれている情報をきちんと区別してくれる存在になってくれると非常に有難いなと、そういうところを図書館でお願いできたらいい、有難いなというようなことを考えた次第です。

田村氏より景山氏のお話について

景山先生からは、研究者としての立場と、アドバイザーとしての立場、解説者としての立場という三つの立場で、現在、活動していらっしゃるというお話をうかがいました。

図書館との関わりでは、根拠のある信頼できる情報というものを、きちんと区別して提示できる存在であってほしいというお話をいただき、関連した問題を提起していただきました。

内田氏 「公益社団法人 鳥取県看護協会 — 新型コロナウイルス感染症への取組 —」

お伝えしたいこと（発表パワーポイントより抜粋）

1. 公益社団法人鳥取県看護協会
2. 看護協会と新型コロナウイルス感染症 この1年半
3. 日本看護協会
4. 鳥取県・日本看護協会等との連携
5. 看護師の条件



田村氏より内田氏のお話について

看護協会が公益法人であるということが意味しているのは、協会は看護職のために活動するのではなく、看護職としての専門的な知識を活かし、国民・県民のために活動することを使命としているということです。このコロナ禍で、そうした協会の使命をみごとに実践されたというお話でした。鳥取にコロナが来る前から準備をやっておられ、実際に始まった時には、現場の声を常に聞きながら対応していかれた話、連携をとられた話、研修をされた話等、具体的なお話を色々うかがいました。

松田 「鳥取県立図書館の目指してきた医療・健康情報サービス そしてこれから・・・」

1. 県立図書館は、コロナ禍でオンライン活用するずっと前、17年前よりサイエンスアカデミーを県立図書館会場と市町村立図書館の各会場をオンラインで結んで、地域の方々へ配信を続けている。
2. 図書館は患者会とつながり、病気になって不安な人と患者会をつなぐハブの役割を目指してきた。
3. コロナ禍においては関連機関と連携し、企画展示やシンポジウムを開催している。

【発表パワーポイントより抜粋】

- 安心して暮らせる！！（利用者の声：電話、投書箱より）
 - ・図書館の健康情報が充実しているから、安心して暮らせる
 - ・医学情報が充実している
- 医療関係者の利用が多い図書館
- 図書館とアフターコロナの未来を共に考えましょう！



田村氏 まとめのお話より

皆さんの熱のこもったお話で時間も来てしまいました。ディスカッションはできませんでしたが、それぞれの発言から、コロナの中で皆さんがどのような経験をされてきたのか、そこでどんな困難・課題に直面したのか、次に繋げるためのどんな大切な経験をされたのか、図書館についてはどうかという話をいただくことができました。

特に大事な話として出てきたのが

- ・信頼できる情報を提供するということの大切さ。
- ・啓発することの重要性。
- ・図書館自身が安心して資料と接することができる場所であるような対策を取ってほしい。

ということでした。

ただ、公立の図書館は、医療・医学を専門にしている図書館ではないので、信頼できる情報を提供できるように、また、それらを県民の皆さんに広く共有できるようにしていくために、みんなで支え連携していく中で、共同で対処していくことが重要であるということが今日のお話の中であつたというふうに思います。

コロナ禍におけるそれぞれの活動、アフターコロナにおける図書館の可能性や図書館に期待することについてパネリスト4名にお話いただきました。異なる分野で活躍されているパネリストの方々から、図書館に求めるものとして「確かな情報」という共通のキーワードが上がったことが印象的でした。



参加者の声（参加者アンケートより）

- ・時宜を得た内容で大変良かった。
- ・図書館、大学、医師、看護協会など、各分野の専門家の活動が具体的に、相互の関連性を持って機能していることがよく分かった。
- ・「信頼して支えあう」勉強になりました。
- ・病気に対する認識が高くなりました。

関連展示

闘病記文庫開設 15 周年記念シンポジウム 2021 「アフターコロナにおける図書館の可能性を考える」



<https://www.library.pref.tottori.jp/health/cat8/post-32.html>



(2021. 7. 1～2021. 7. 30)

<https://www.library.pref.tottori.jp/exhibition/cat10/cat3/10-287128730.html>

関連展示

「ハンセン病問題啓発パネル展示」

6月22日の「らい予防法による被害者の名誉回復及び追悼の日」に合わせて、令和3年6月1日から7月30日まで、「ハンセン病問題啓発パネル展示」を行いました。



【企画展示】ハンセン病問題啓発パネル展示



ハンセン病問題啓発資料コーナー

- ・昭和6年(1931)「癩予防法」成立
国立の療養所が各地に建設され、強制隔離が進められる。
- ・昭和28年(1953)「らい予防法」として改正
強制隔離を続行
- ・平成13年(2001)「らい予防法」廃止
- ・平成20年(2008)「ハンセン病問題の解決の促進に関する法律」制定

<https://www.library.pref.tottori.jp/exhibition/29714730-1.html>

関連事業

「みんなで広げよう、シトラスリボンプロジェクト」

感染症の関連展示や闘病記文庫開設 15 周年記念シンポジウム 2021の会場で、図書館職員が作ったシトラスリボンを配布しました。

鳥取県 総務部 人権局 人権・同和対策課HPより

・シトラスリボンをつけてお互い「ただいま」「おかえり」と笑顔で言いあえる人の輪を「地域」「家庭」「職場(学校)」に広がります。

※コロナ感染者への誹謗中傷に心を痛めた愛媛県の市民グループの呼びかけで始まった取り組みが全国に広がっています。 <https://citrus-ribbon.com/>

鳥取県庁もこの取り組みに賛同し、笑顔の輪を広げていきます。

県立図書館で展示・シトラスリボン配布



みんなで広げよう、シトラスリボンプロジェクト。



鳥取県は、シトラスリボンプロジェクトに賛同しています。

